



# 文字との出会い

～「聞く・描く・見る」からの芽生え～



楽しい絵本読み聞かせの時間♪

足羽東こども園では、楽しい遊びの中で言葉に自然と興味がわくように、日々園児とかかわっています。保護者の方からの相談のうちに「文字はどのようなように教えるといいですか?」「クラスのお友だちがひらがなを読んでいた。いつごろから興味をもち、読めるようになるものなのでしょう?」など、文字の習得に関する相談があります。

そこで、文字に興味をもつまでの過程や当園での取り組み、年齢に応じたかかわりについてご紹介します。

## スタートはすでに…

ひらがな文字の習得という、机に向かって保護者や保育教諭等の大人に教えてもらうというイメージがありますが、決してそれだけではありません。実は、ひらがなの学習には一定の順番があります。

最初は「聞く」ことから始まり「話す」体験を積み重ねることで「読み書き」への興味が芽生えます。まず、書くよりも絵本の読み聞かせなどでたくさん言葉に触れる体験が大切です。そして、ひらがなに興味をもったときに、少しずつ始めていくとよいと言われています。

つまり、文字習得の基礎は乳児期から始まっているのです。遊びや生活の中で文字を見たり聞いたり、会話を楽しんだりしていくことで、次第に身近になり興味をもつようになります。

園児は、絵本の読み聞かせが大好きです。保育教諭の声と絵本のイラストに集中し、言葉のリズムや言葉を楽しむことを知っていきます。

## お絵かき遊びを十分に!

子どもの絵は、手先の発達につれて変化していきます。個人差はありますが、3・4歳ごろの手指の骨格や筋肉は未完成なので、整った形や文字を描く・書くことは難しいのです。幼いころから、自由にお絵かき遊びを楽しむ中で、思い通りに手首を動かす力や筆圧等の『運動筆力』を身につけることが大切になります。

特に3・4歳になると、体験したことや知っているものを思いおもいに表現できるようにになります。「描く」楽しさをたくさん味わうことで、将来「書く」意欲が育っていきます。

保育教諭は、完成した絵画と一緒に見ながら「何を描いたの?」「すごいね、元気いっぱいだね」などと言葉に出し、やりとりをしています。園児に達成感や喜びを感じさせられるようなかかわりをもつことで、さらなる意欲につながっていきます。

『描くと自分の気持ちも伝わる』という自信が育つと、絵を積極的に描くようになり手指のコントロール力が育ちます。

【描画の発達のプロセス】

- 1歳〜  
腕全体を使って**縦・横の線や点**を描く
- 2歳〜  
手首を使って**グルグル線**を描く
- 3・4歳〜  
手指のコントロール力が育って**円などの形**を描く
- 5歳以降  
これまでの経験を土台に**具体的な絵や文字**を描く・書く

※発達には個人差があるので、あくまで目安です。

絵画活動の様子(4歳児)



紙一面に大きな牛を描いています

道具を  
ステップアップ  
5歳児は  
習字に挑戦!

当園で使用している筆記具はクレヨン、色鉛筆、マジック、絵の具、鉛筆です。幼いころから使い始めるクレヨンや絵筆は、弱い筆圧でも濃く描け、のびのびと描く体験ができます。お絵かき遊びをたくさん積み重ねることで自然に『書く』ことへの興味が広がっていきます。

保育教諭は、遊びの内容に合わせて筆記具を提供し、自由に思い描く力を育てています。



習字の宮川定幸講師から教わります

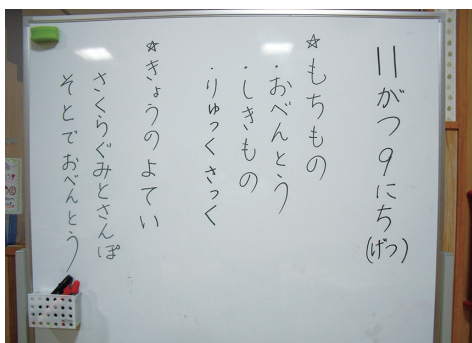
5歳児は月1回、習字教室を行っています。ボランテアで教えてくださる講師に習い、前期は硬筆、後期からは習字に挑戦しています。初めて見る硯や文鎮などの習字道具を前にし、緊張する様子と同時に「早く使ってみたい」というワクワク感も現れていました。講師に目を向ける眼差しは真剣そのもの。筆の持ち方、墨のつけ方など丁寧に使い方を教わりながら、筆を動かしていろいろな線や形を書くことを楽しんでいます。

日常生活の中で  
感じる文字

生活の中でよく目にする「自分の名前」や「友だちや家族の名前」に使われている文字などは興味をもちやすく覚えやすいようです。

当園では、ロッカーや下駄箱、個人の物に名前が書いてあったり、遊び道具の写真と名前を合わせて表記してあったりとひらがなを見る機会を取り入れています。

また、4・5歳児になると、しりとりやカルタ遊びの中で、言葉や文字に親しんだり、保育教諭が文字を書



予定をみんなで確認します

くところを見せながら、翌日の予定を知らせたりすることで、園児がひらがなに興味や関心を広げられるような環境作りを行っています。

園生活の中では、文字とかかわる体験がたくさんあります。遊びの中で繰り返し文字に触れる体験を楽しむことで、興味をもつきっかけとなっていきます。

保育教諭は、園児一人ひとりが今、何に興味をもっているかを見極め、少しずつ興味を広げていきます。

今後も、教え込むのではなく、自然に「読みたい」「書きたい」という気持ちや育つような保育・教育の活動を工夫していきます。

足羽東こども園  
保育教諭 井上 英里奈